

令和7年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 梓の郷	代表者	豊田喜久夫	法人・ 事業所 の特徴	「わたしらしく、いつまでも」の法人理念を在宅介護サービスの分野においても、より実践していきたいと考えている。さんぼみちは「わたしらしい人生をいつまでもわたしらしく堂々と生きる」をモットーに、今までの人生で培ってきた「持ち味」や「力」をさんぼみちでも発揮できる支援をしていく。 「また行きたくなる、誰でも気軽に来れる場所」という総合コンセプトのもと、介護を必要としている高齢者のみならず、子ども、障がい者、地域住民誰もが、“ごちゃませ”に集える場所を目指している。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護さんぼみち	管理者	小林俊介		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	2人	2人	1人	1人	0人	4人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	来年度事業計画に基づき、計画が達成できるよう適宜現場や他事業所との連携、協働をしていく。必要な内部研修は定例会議とは別に時間を設け参加をし、自己のスキルアップに繋がるようにする。	内部研修が計画的に行えていなかった。非正規も多く夕方以降の参加が難しく日中も集まって行える時間が捻出できない。能力アップやスキルアップなどに時間を割きたいが、外部研修を勧めることもあまり出来なければ現場スタッフから特に外部研修への参加意欲が低かった。	スタッフ間で密にコミュニケーションをとっていくことは難しいのでは？現場は忙しく大変だと聞き打ち合わせすることが困難だと思う。介護報酬の引き上げなど国がやらないといいけない。この自己評価だけでは能力アップなど具体的に行われているかまで見えない。	内部研修を前年度より計画的に行い内容も充実させる。日々のご利用者との関わりの中で、本人の「～したい」や役割に結びつくような言葉や行動等を事業所会議で情報共有する。
B. 事業所のしつらえ・環境	さんぼみちの環境を知ってもらえるよう、よりみちの見学に来た方や地域の方々や催しに訪れた際にはさんぼみちも見学をしてもらうようにする。	サービスを考えている以外の方々のさんぼみちへの見学は少ない。地域のボランティアの方がお菓子作りなどで訪れてリビングなどで触れ合う機会は前年度より増えた。	開かれた事業所であることはありがたいが防犯も考えたほうが良い。この評価基準が災いにならないように。利用者にも聞いてみて評価しても良いと思う。	スタッフ間の申し送りなど場所や声の大きさに注意してプライバシーに配慮する。
C. 事業所と地域のかかわり	さんぼみちの職員がコミュニティスペースでの催しに参加できるようにさんぼみちで行う企画から参加を促し、管理者や計画作成担当者が調整できるようにスケジュール管理や配慮をする	前年度より利用者、スタッフ共に混ざる機会が増えた。よりみち利用者の方からもさんぼみちの利用者に参加してもらって良いと声も数件あった。	地域に積極的に関わろうとする姿勢に頭は下がるが、一方で国の要求が報酬に見合っているか疑問。知名度は高い。ここのPRをもっとしていった方が良い。	地域の方々が気軽に来てもらえるような有料老人ホーム、居宅との合同のお祭りを企画する。さんぼみち便りを年に3回以上は発行し地域の方にPRしていく。

	こと。			
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	梓川地域の活動や行事を知るべく回覧物はスタッフ全員に回覧をして知ること。散歩やドライブ、ゴミ拾いや清掃など、ご利用者と共に地域に出向く機会を設ける。	氷室地区での利用者とのゴミ拾い、防災訓練、福祉の集いでの作品展示で小規模多機能のPRが行えた。	確認はできていないので分らないが会議で報告されているので取り組まれていると思う。可能な限りのことは行っていた。体操に参加している地域の方のバスまでの見送りなど対応をしてくれていた。	地域の住人で心配のある方や地域の困り事などについて相談があった場合、事業所（居宅も含めて）で出来る支援はないか話し合う。年に2回はゴミ拾いや清掃などの奉仕活動を行う。包括や町内会等の様々な機関と連携・協力する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き介護者の集いを開催する。内容としては地域の課題に向けたものや介護の悩みに関することを盛り込んだミニセミナー付きの集いを開催する。	地域の課題を解決するということは出来ないが、のり一との協力の呼びかけなど小さくても出来ることはしたと思う。介護者の集いも計画とおりに実施できている。一番は身近な近所の方や、この事業所がある地区の方が参加できれば尚のこと良いと思っている。	こちらとしても意見をきいて頂きありがたい。前年度出た意見をもとに新しく取り組みが行われていて良かったと思う。	・運営推進会議も社会資源のひとつと考え、出された提案も具体的に実現できる様に取り組んでいく。会議に現場の介護スタッフも参加し、地域との関係づくりや課題を一緒に考えることができる。
F. 事業所の防災・災害対策	倒れたら危険な家具は固定をする。他の小規模多機能の事業所の防災。災害対策も参考にする。	他の事業所の対策が不明だった。BCP研修を内部研修として2度行ってはいる。実地指導では事業所での備蓄を明確にしたほうが良いと指摘あり。	防災訓練に参加したことないので声をかけてほしい。家具の転倒防止に取り組んでいるが、家具の上に物が置かれている箇所があり有事の際に危険だと思う。災害時の対応方法が分からないので応援者等の地域との連携について具体的な内容が必要ではないかと思う。	避難訓練とは別にBCP訓練（机上訓練）を年に2回以上行う。運営会議でも避難訓練の実施を報告する。